

---

## 第1地域 RRFC 便り3月号

---

【RI 会長エレクトが 2021-22 年度の  
会長テーマを発表】



シェカール・メータ RI 会長エレクト

2020-21 年度会長エレクト

Calcutta-Mahanagar ロータリークラブ所属

インド(西ベンガル州)

会計士であり、自身が設立した不動産開発会社「Skyline Group」の会長。カナダを本拠とする「Operation Eyesight Universal (India)」のディレクター。

カルカッタ-マハナガル・ロータリークラブ（インド、西ベンガル州）に所属するメータ氏は、ロータリー国際協議会中の 2 月 1 日、次期地区ガバナーに向けて 2021-22 年度の会長テーマ「**奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために**」を発表しました。地区ガバナーエレクトを研修するための年次行事である国際協議会は当初、オランダ（米国フロリダ州）で開催予定でしたが、新型コロナウイルス流行のためバーチャル（オンライン）で開催されました。

### **多様性と会員基盤の向上に焦点を当てる**

メータ氏は、2021-22 年度には**会員が女子のエンパワメントに力を注ぎ**、教育、リソース、奉仕、機会など、**未来の女性リーダーの成功に必要な手段を与えてほしい**と述べました。その上で、多様性、公平さ、開放性に対するロータリーの信念を会員が活動の指針とすることが大切であると語りました。

「世界各地で女子は多くの問題に直面しており、リーダーである皆さんは、こうした女子が抱える問題にロータリーが取り組み、それを和らげるように導くことができます」

奉仕を通じて大きなインパクトをもたらすには、ロータリーの会員基盤を広げる必要がある、とメータ氏。全世界の会員数は、過去 20

年間、約 120 万人のまま横ばいです。このため、2022 年 7 月 1 日までに 130 万人に増やすことを目指して地区で率先して活動するよう、次期ガバナーに呼びかけました。メータ氏の「Each One, Bring One」（みんなが一人を入会させよう）は、今後 17 カ月間、全会員がロータリーに一人を入会させることを求めるイニシアチブです。

会員基盤を広げながら、ポリオ根絶活動、新型コロナウイルスとの闘い、地域社会への奉仕を続けていくのは野心的な目標であることを認めた上で、「だからこそ皆さんの意欲が駆り立てられるでしょう」とメータ氏。「挑戦に立ち向かうのがロータリアンだからです」

災害救援に熱心に携わり、シェルターボックス（英国）の管理委員も務める。2004 年のインド洋大津波の際には、被災した家族のために 500 戸近い家屋の建築を支援。

南アジアで 1,500 件以上の心臓外科手術を提供したプログラムを立ち上げる。インド全土での識字率向上をはかる「TEACH プログラム」の創設にもかかわり、このプログラムを通じて何千もの学校に支援を提供。

1984 年にロータリークラブ入会。RI 理事、各種委員会の委員と委員長、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、ロータリー財団専門

家グループメンバー、地区ガバナーを歴任。ロータリー財団（インド）の理事長も務める。

超私の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状と特別功労賞を受賞。

ラシ夫人と共にメジャードナー、遺贈友の会会員としてロータリー財団を支援。

会長によるイニシアチブ

[ロータリー奉仕デー](#)を開催しましょう：よりよい地域社会を築くためにロータリー会員と市民が共に奉仕活動に参加する日。

会長主催会議への出席を計画しましょう：[2021-22 年度会長主催会議](#)では、ロータリークラブや地区が地元や海外で実施している人道的活動にスポットを当てます。

- 2021年10月4～5日：韓国、慶州
- 2021年11月6～7日：イタリア、ベニス
- 2021年11月26～27日：フィリピン、マニラ
- 2022年2月12～13日：ブラジル、フォス・ド・イグアス
- 2022年2月25～27日：インド、ハイデラバード
- 2022年3月4～5日：モザンビーク、マプト

## 【ロータリー財団に関する変更点のお知らせ】

私たちは今、世界的な保健の危機、自然災害、経済の混迷を同時に経験するという未曾有の混乱の中にあります。 そのような中でもロータリーの活動は継続され、クラブ、ロータリアン、ローターアクターによる数々の奉仕活動が行われています。

ロータリー財団は、地域社会における会員の取り組みを支援できることを誇りとしています。2020年3月以来、財団は、新型コロナウイルスと関連するグローバル補助金と災害救援補助金のプロジェクトに3200万ドルを授与してきました。2019-20年度に授与したグローバル補助金は1,359件、総額9560万ドルに上ります。グローバル補助金が導入された2013-14年度に868件、4730万ドルだったのと比べると、非常に大きな成長と言えます。財団の補助金は、ロータリーのインパクトの大きさを実証する世界中のプロジェクトを支援しています。

今年度には、できるだけ多くのグローバル補助金を授与するために複数の経費削減策が取られました。例えば、管理委員会と理事会は最近、財団の運営準備金と国際ロータリーの予算剰余から1500万ドルを国際財団活動資金（WF）に充てました。合計で追加2000万ド

ル近くが今年度に利用可能となりましたが、残念なことに、それでも今後提出される申請に応えるために十分ではありません。

グローバル補助金の需要の高まりから、今年度に（そしておそらく来年度も）資金不足が生じることが予想されます。

このため財団管理委員会は、より多くのグローバル補助金を授与するため、方針への変更を承認しました（2021年7月1日より有効）。

### **1.ポリオプラスへの地区財団活動資金（DDF）の寄贈に対する上乗せが50%に**

ポリオプラスへのDDFの寄贈に対しては、国際財団活動資金（WF）より、100%ではなく、50%が上乗せされることとなり、その後でビル&メリンダ・ゲイツ財団からの上乗せが行われます。ロータリーがポリオ根絶のために集める資金に対し、今後もゲイツ財団から2倍額が上乗せされます（上乗せの対象となるロータリーからの金額は毎年5000万ドルまで）。

ポリオ根絶のために年間5000万ドルの寄付を集めつづける一方で、クラブ、地域社会、政府関係者が協力して引き続きポリオ根絶を優先事項とし、認識を高めていくことが不可欠です。

## **2. グローバル補助金のための DDF に対する WF からの上乗せを、100%から 80%に引き下げ**

グローバル補助金のための DDF に対しては、WF からの上乗せが 100%から 80%に引き下げられます。2020-21 年度には、WF が枯渇しない限り、5月 31 日までに提出され、6月 30 日までに承認された申請書に対し、引き続き DDF に 100%が上乗せされます。今年度に承認されなかった申請書は、調達資金に調整を加えた上で再提出する必要があります。

## **3.年次基金（シェア）寄付の 5%が、運営費に充てるために WF と DDF から均等に引き出される**

現在、年次基金（シェア）への寄付は、WF と DDF に均等に二分され、寄付額の 5%が運営費として WF のみから引き出されています。7月 1 日より、年次基金（シェア）へのすべての寄付は、運営費として 5%が引き出されたあとで、WF と DDF に均等に二分されることとなります。例えば、寄付額が 100 ドルである場合、運営費 5%がまず引き出され、その後で残りの 95%が DDF と WF に均等に二分されます（DDF と WF にそれぞれ 47.50 ドルずつ）。

## **4.未使用 DDF を繰越しできるのは 5 年間のみとなる。** 各年度末に

5年を超えて未使用である DDF は、地区の裁量で、ポリオプラス、重点分野のための恒久基金、恒久基金（ロータリー平和センターを含む）、災害救援基金、WF のいずれかに充てることができる。この方針の下、未使用 DDF がほかの基金に最初に充てられるのは 2026 年 7 月 1 日となる。

年次基金への寄付者は、寄付が地域社会での奉仕活動のために迅速に活用されると期待して寄付をします。しかし、毎年、未使用のまま多額の DDF が翌年に繰り越されます。2020 年 7 月 1 日には、4880 万ドルが現年度に繰り越されました。繰り越される資金を活用して大きなインパクトをもたらしましょう。

2026 年 7 月 1 日より、上記の通り、地区は、2020-21 年度から未使用のまま繰り越されている DDF をどう活用するかを選ぶことができます。地区が繰り越し DDF の指定先を財団に通知しない場合、この DDF は自動的に WF に充てられます。

財団管理委員会は、本件について長期間にわたって協議を重ね、慎重な検討と計画の結果として方針への変更を行いました。プログラムの需要に応じて資金のバランスを図ることは、どの非営利団体にとっても課題であり、状況の変化に対応するには時に調整や難しい決



断が必要とされます。

今回の変更についてさらに詳細にご説明するため、今後数週間以内にウェビナーを開催する予定となっております。このウェビナーについては、別のEメールでご案内いたします。それまでの間、本件についてさし迫った質問等ありましたら、

[rotarysupportcenter@rotary.org](mailto:rotarysupportcenter@rotary.org) にご連絡ください。

充実したプログラムを維持し、成長させることができるかどうかは、**今後も会員からの年次基金 (シェア) への寛大なご寄付にかかっています**。補助金と財団プログラムに資金を提供していくために、今後も慎重な資金管理と投資に努めてまいります。

ご協力とご理解を何とぞお願い申し上げます。

心を込めて

2020-21 年度ロータリー財団管理委員長

K.R. ラビンドラン

## 「多様性・公平さ・開放性」をローターアクトターが推進



2019年10月に米国シカゴでロータリー主催により開催された「多様性・公平さ・開放性」に関するパネルディスカッションの出席者たち、ちょっとした連想ゲームをしてみましょう。私はアメリカ人です。そう聞いて、皆さんは私についてどんなことを想定しますか？私の両親はフィリピンからの移民です。こう聞いて、その想定が変わったでしょうか。

私たちは無意識に、ほとんど知らない人について思い込みをします。誰でも、多少の偏見を持っているものです。そのように社会から教えられているからです。実際、私が住む社会でそうであるように、肌の

色が薄いのが普遍的な美であると、どのようにして定義づけられてしまったのでしょうか。しかし、私たちはこれを変えることができます。意識を高めさえすれば、このような考えに立ち向かうことができます。自己防衛に走るのではなく、世界に対する人びとの見方が変わってきていることを認め、この新たな認識を行動に反映させていく必要があります。

「多様性・公平さ・開放性 (DEI = Diversity, Equity, and Inclusion)」に関する私の旅は、数年前、職場で研修を受けたときに始まりました（それまで、自分にそのような研修が必要だとは思っていませんでした）。そこで、「無意識の偏見 (アンコンシャス・バイアス)」について知り、自分が無意識に、しかも意図せずにはほかの人を傷つけていたかもしれないことに、戸惑いを感じました。

これをきっかけに、DEI について、またそれをどう支援できるかを、自分なりに学び始めました。「アメリカで生まれ“アメリカ人”の国籍を持つ」、「出生証明書に記載された性と自認するジェンダーが同じである」、「大学教育を受けている」など、私は恵まれていると感じています。こうした恩恵を生かして、抑圧された人たち、社会の隅に追いやられた人たちを助けたいと思ったのです。

そんな時、米国ミネアポリス州でジョージ・フロイドさんが殺された動画が世界に配信されて話題となり、人種間の平等を訴える声が一気に高まりました。Big West ローターアクト多地区合同情報組織（BWR）でも、組織内での行動につながるような持続可能な変化を生むために、何時間もかけて独自の [Black Lives Matter の声明](#) を作成し、これに則って行動することを誓いました。

**世界に対する人びとの見方が変わってきていることを認め、この新たな認識を行動に反映させていく必要があります**

### 【PHS 認証式中止のご案内】



THE ROTARY FOUNDATION OF ROTARY INTERNATIONAL  
**PAUL HARRIS SOCIETY**

4月札幌での PHS 入会式開催を財団本部にも問い合わせを致しましたが、2021 年 6 月末までの対面する会合を歓迎せれませんでした。従いまして泣く泣く中止の決断をいたしました。（羽部記）

## 【雛人形と虚子の句】



雛人形

今回は3月ですのでお雛様の立ち雛を描いてみました。少しお姫様のお顔が現代風に小さな印象を感じておられると思います。この絵に描かれているお二人のお顔にはお鼻が描かれていません。目の直ぐ下にお口があります。さて今回の高浜虚子の句は、まさに「雛の顔 鼻なきがごと つるつると」と詠まれています。実に上手く表現していると感心しました。

目の前の風景をそのまま写しとる俳句が得意で、自然を題材にした作品をおおく残しています。また、水原秋桜子、山口誓子、阿波野青畝、高野素十など、たくさんのお俳人を育てたことでも知られています。流石に子規に後継をと認められ「虚子」の号を得た、素晴らしい俳人と改めて感じました。(羽部記)